

2 学校における生命を大切にする指導の在り方

学校教育においては、すべての児童生徒が生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を培い、学校のみならず、家庭・地域における生活の中で実践できるようにすることが必要です。

そのため、各学校においては、各教科等の特性に応じて、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、自他の生命を尊重する態度を身に付けさせることができる指導計画を工夫し、将来にわたってよりよく生きようとする実践力を高めるようにすることが大切です。

生命を大切に
する心をはぐ
くむ

(1) 各教科等における指導の充実

生命を大切にする指導は学校教育全体で進められるものであり、道徳の時間をはじめとして各教科、特別活動、総合的な学習の時間、日常的な生活の場面のそれぞれの特質に応じて適切な指導を行うことが大切です。

① 各教科における指導の充実

各教科においては、目標、内容に応じて、生命を大切にする心にかかわることをどのように取り入れるかを明確にするとともに、体験的・問題解決的な学習を効果的に取り入れるなど、指導計画の工夫を図ることが大切です。

指導の充実の具体例	
目標、内容に応じて、生命を大切にする心にかかわることをどのように取り入れるかを明確にする。	小学校「生活科」 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらが生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようになる。 ・飼育や栽培の過程で、新しい生命の誕生に遭遇したり、死んだり、枯れたりといった事実と直面し、生命のあることを実感する。 中学校「国語科」 人生について考えを深め、たくましく生きる意志を育てるのに役立つ優れた文学作品などの教材を選択するようにする。 ・例：「城の崎にて」を教材として、作者の生と死に対する考え方に迫るとともに、生命を尊ぶ心を育てる。 中学校「保健体育科」 健康を保持増進させる能力を身に付けさせるとともに、自らの生命を大切にしようとする態度を育むようにする。 ・喫煙場面におけるロールプレイ等を行う。 高等学校「公民科」 人間の尊厳と生命への畏敬などについて倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深める。 ・課題追求学習で「死」についてグループで協議する。 高等学校「保健体育科」 交通安全において交通事故を防止するためには、自他の生命を尊重する態度が重要であることを理解する。 ・交通事故被害者の会の方の講話を聞いたり、交通事故発生状況についての調査をする。
体験的な活動や問題解決的な学習を効果的に位置付けた指導計画を工夫する。	小学校「社会科」 食べ物を扱う職場で働いている人たちの細かい配慮は、特に健康に留意し、人々の生命を尊重する気持ちが根底にあることを理解する。 ・パン工場の見学を通して、工場で働く人たちが衛生や安全に気を付けて仕事をしていることを理解する。 中学校「理科」 生命の尊重や自然環境の保全に関する態度が育成されるようにする。 ・野外で動物や植物を観察する場合には、必要最小限度の採集や標本作製にとどめる。 ・動物の解剖では、生命を絶つことになる動物を可能な限り少なくする。また、事後には決して粗末に扱うことがないようにする。 ・飼育していた動物の死などを通して生きているとは何かを考える。 中学校「音楽科」 作曲者の人生観や生き方そのものに触れることにより、鑑賞が心に響きわたる深みのあるものにする。 ・ベートーベンの「運命」の鑑賞において、ハイリゲンシュタットの遺書を教材とし、死を乗り越え、強く生き抜いてきた姿を感じ取らせる。 中学校「技術・家庭科」 幼児と触れ合う体験を通して、人の成長に必要な周囲の人たちの温かい援助や生命が人々のぬくもりに守られ、支えられていることに気付くようにする。 ・幼稚園や保育所等を訪問し、幼児と遊ぶなどの体験活動をする。

② 道徳における指導の充実

道徳の時間においては、子どもの生活現実に直接かかわるものを中心資料として活用するなど生徒指導の内容や課題を関連させて取り上げたり、ボランティア活動や自然体験活動などの体験活動を取り入れるなど学習指導を工夫することが大切です。

	指導の充実の具体例												
豊かな体験活動の充実を図る。	自然体験活動を通して自然や生き物とのかかわりを深め、自然の素晴らしさを味わうとともに、それを愛護しようとする気持ちを実感できるようにする。 ・野外における植樹の体験の後に、生徒が書いた感想文を道徳の時間の補助資料として活用する。												
学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育において「心のノート」を活用する。	道徳の時間の導入や終末において書き込み、生きることを考えるようにする。 かけがえのないいのちだから、みんな助け合って生きている  わたしたちは、多くの人びとにささえられて生きています。 わたしたちも、多くの人びとをささえることができます。 一生けんめい生きている  一生けんめい生きているとは、思いやり取り組むこと。いま、思いやりやってみないと、どんなことがあるだろう。 理科の生物に関する学習では、知的理解を基盤に、このページへの記述を通して「たったひとつのかけがえのない生命」の重さ、尊さを自らの生命に照らして考えられるようにする。 かけがえのない生命  少 生命について感じたり、考えたりしたことを書いてみよう。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 月 日</th> <th>年 月 日</th> <th>年 月 日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> 生と死について考えよう ひとの生命を愛せない者に、自分の生命を愛せるわけがない。 生か死か (大岡政談) 生の欲びは大きいけれど、自覚ある生の欲びはさらに大きい。 ゲーテ たったひとつのいのち かけがえのないいのち 大切に生きたいの	年 月 日	年 月 日	年 月 日									
年 月 日	年 月 日	年 月 日											

望ましい
集団活動
を通した
指導

③ 特別活動

特別活動においては、実際の生活経験や体験活動による学習を通して、全人的な人間形成を図っていくものであるとともに、望ましい集団活動を通して、ともに生きる力を育成するよう、教師の適切な指導のもと意図的・計画的に取り組むことが大切です。

指導の充実の具体例	
共感的な態度により、意欲を高める指導を工夫する。	より大きな集団への所属感や連帯感を培い、生徒の人間形成に役立てるとともに、共に生きていることの意味を実感するようにする。 ・全校朝会で、地域の高齢者の方についてのエピソードの講話を通して、生きる目的について考えさせる。
指導計画に基づく意図的・計画的な指導を工夫する。	学校内外を含めた自分の生活行動を見直し、安全に配慮するとともに、危険を予測できる力や的確に行動できる力を高めていく。 ・学級活動における夏休みの事前指導において、夏休み中の交通事故や水難事故、不足の事態に対する指導を通して生命を尊ぶ心を育てる。

「人の心」
と触れ合
う体験を
通した指
導

④ 総合的な学習の時間

子どもたちは、自然体験やボランティア活動などを通して、高齢者や障害のある人とのふれあいや、地域の人たちから直接指導を受ける学習の場をもつなど、地域などで学ぶことを通して「人の心」と触れ合う体験を行っています。

このような活動によって子どもの生活意識や行動が変容していくよう、意図的・計画的に位置付けていくことが大切です。

指導の充実の具体例	
生命を尊重する態度をはぐくむ内容を指導計画に位置付ける。	生きることを意味を考えるとともに、支え合いに感謝して生きようとする心を育てるようにする。 ・医療や生命をテーマとした単元の学習において、病院を訪問し看護の現場を調査する。
地域の人々との交流を取り入れた指導を工夫する。	高齢者や障害者との交流や地域における行事に参加する活動などを通して、生きることを意味を考えさせるようにする。 ・老人ホームを訪問し、高齢者との触れ合いを通して、生きがいについて考えを深める。

課外にお
ける生命
を大切に
する心を
育てる場

(2) 日常生活全体で実践できる場の工夫

学校における授業以外の場面として、朝や帰りの学級の時間、休憩、給食、清掃、放課後、部活等の時間などがあります。

例えば植物の栽培などの場面では、植え代えの作業などを通して、生命を維持するためには、絶えず努力が必要であり、生命の尊さを実感するとともに、細心の注意を払って動植物の生命を守ろうとする心情を育てることができます。また、教師と子どもの会話の中で、郷土の伝統行事が人々の生命を大切にする心に結びついていることについて触れるとき、子ども自身の共通の願いが健康であり、自他の生命を尊ぶ心を育てることができます。

授業以外の教育活動の場も子どもの生命を尊重する心を育てる上で大切な場であり、子ども自らが成長を実感でき、新たな課題や目標を見つけられるよう指導を工夫することが必要です。